

医学系研究科 保健学専攻

学位プログラム： 保健学研究（統合保健看護科学）

授与する学位： 博士（看護学/保健学）

教育目標

大阪大学及び医学系研究科保健学専攻の教育目標のもと、学位プログラム「保健学研究プログラム（統合保健看護科学）」では、看護学・保健学の発展に寄与し、現代医療のニーズに応えられる高度な医療技術と知識を持ち、サイエンスの進歩に適応できる柔軟な思考力と高度で幅広い知識や実行力を備えた、研究・教育・実践を発展させることができる保健医療者を育成します。本プログラムでは、これら保健医療者が、高度な専門性を持ち、医療に関する深い学識と先進医療のあらゆる分野に対応できる力を身につけ、高い倫理観と豊かな人間性を備え、医療の地域発展、国際展開を推進できる次のような能力を備えることを目指して人材育成を行います。

○最先端かつ高度な専門性と深い学識

高度な専門知識と技術を、各専門領域におけるフィールドワーク等の演習を含む主体的学修を通して十分に修得させ、現代医療のニーズ及び課題、高度先進医療・未来医療についての研究・開発・実践をできる能力を付与します。その中で、高度な専門性とそれを基盤にした研究方法とエビデンスに基づいた看護実践及び保健医療実践の深い理解を促します。

○高度な教養

統合保健看護科学は、看護学・保健学が基盤とする「健やかさ」をさらに深め、その真理を追求することであり、それは身体、心、精神という個人の立場とともに、家族、社会生活、自然環境、職場環境など、複眼的、俯瞰的、多様な視点で考え、実践し、研究することにあります。看護学・保健学を探究する学修を通して人間を十分に知り、健康と社会の関係を理解し、対人コミュニケーションを適切にとるための幅広く高い教養を身に着けることを目指します。

○高度な国際性

健やかに生まれて、成長して、歳を重ねていくという国籍や時代、生まれ育った地域や環境に制約されない、人々の普遍的な願いの実現について考え取り組むことで、医療の国際展開を含む多様な課題について考え、保健医療の課題をグローバルな視点で解決できることを目指します。

○高度なデザイン力

看護学・保健学の高度な専門的視点で、人々の理想の実現のために、研究、看護実践及び保健医療実践を豊かにデザインできる力を養います。その上で、行政や政府関連機関で保健医療施策を講じ、医療機器・製薬企業やシンクタンクで先進的なスペシャリストとして、他分野の人と協

働し、複雑多様な課題を発見・解決できる人材の育成を目指します。

保健学研究プログラム（統合保健看護科学）では、看護学・保健学と保健医療の高度な知識と技術を基盤に、国内外の研究・教育・実践の場で、新しい研究分野を開拓できるデザイン力を持ち、現代医療のニーズ及び課題を解決するための研究と開発・実践・教育を発展させ、今後の国際社会におけるリーダーシップを発揮でき、看護学・保健学に貢献する学位論文を科学的にまとめた学生に学位を授与します。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

大阪大学及び医学系研究科保健学専攻のディプロマ・ポリシーのもと、学位プログラム「保健学研究プログラム（統合保健看護科学）」では、看護学・保健学を基盤に、国内外の教育・研究・実践の場で、新しい研究分野を開拓できるデザイン力を持ち、現代医療のニーズ及び課題を解決するための研究と開発・実践・教育を発展させ、今後の国際社会におけるリーダーシップを発揮できる人材を育成するという理念のもと、以下の目標を達成した学生に博士（看護学/保健学）を授与します。

○最先端かつ高度な専門性と深い学識

- ・看護学・保健学の各領域で求められる高度な知識・技術を有している
- ・看護学・保健学の課題解決に向けて、修得した知識・技術を活用できる

○高度な教養

- ・高い倫理観を持ち、豊かな人間性を身につけている
- ・健康と社会の関係を複眼的・俯瞰的に思考し、人類の文化・社会・自然に関連づけて他者に説明できる

○高度な国際性

- ・異なる言語・文化背景を考慮した、保健医療のあり方について検討し提供できる
- ・高度な専門知識を活用しながら、言語・文化の相違を超えて交流し、保健医療の課題をグローバルな視点で総合的に評価できる
- ・国際学会・国際誌で研究成果を公表でき、自身の研究を社会へ説明できる
- ・医療科学における国際連携の中でリーダーシップを発揮でき、後進の指導や社会的な活動などを通じて医療科学の社会的発展の推進力を有している

○高度なデザイン力

- ・研究課題には世界的新規性があり、臨床応用への展開、他分野の人々、他の専門分野と融合した新しい看護科学・保健科学の創生や、未来医療を開拓することができる
- ・学問の府たる大学としての自主性、独創性がある研究を遂行でき、研究の視点として理論と実証の両面を身につけている

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

大阪大学及び医学系研究科保健学専攻のディプロマ・ポリシーのもと、学位プログラム「保健学研究プログラム（統合保健看護科学）」では、教養教育、専門教育及び国際性涵養教育に関する授業科目を体系的に編成し、講義、演習、実験・実習を効果的に組み合わせて、高度な知識と教養、豊かな人間性、高い倫理観を身につけながら、専門領域の理解を深め、理論と実践を科学的に追求し、各領域の研究を発展させ、科目の特性に応じた評価方法により、学修成果及び学位論文を適正に評価します。

<教育課程編成の考え方>

看護学・保健学が取り組むべき課題は、広く人々の健康と福祉までも包含するものであり、課題を解決するためには、高度で広範な知識と柔軟な対応力が必要となります。このため博士前期課程で養った能力に積み重ねる形で、1年次の導入段階では、高度な専門教育と豊かな教養教育を同時に展開させることで、看護学・保健学と医療への理解を深め、さらなる主体的学修を促す編成となっています。そして専門教育が進むにつれ、高度の専門知識・技術を総合的に教育・研究する教育課程となっており、自律した研究者を養成できるよう科目がデザインされています。

<学修内容及び学修方法>

国際性とデザイン力に関しては、専門教育・教養教育と並行しつつ、国際性涵養教育により、異なる言語や文化背景、海外の研究への理解を深め、研究方法及び保健医療のあり方についての検討を重ねていきます。そして2年・3年次では、各分野の専門性をふまえた研究課題に各自が取り組むことを通して、看護学・保健学と医療分野における新たな課題を発見し、解決の道筋を構想していきます。留学や外国人学生との交流機会、国際誌掲載の論文の輪読やクリティーク、レポートのリフレクション、英語でのプレゼンテーションの演習で、国際的視野が広がり、研究成果を国際学会、国際誌に出版することにつながります。

看護学及び保健学は実践の科学でもあるため、そのエビデンスを構築することも重要です。各専門領域では、学内での座学を中心とする講義科目、試行錯誤や工夫を重ねつつ互いに学ぶ演習や実験の科目に加え、研究フィールドでの学修が必須となる演習科目を設けています。

また、研究や看護実践・保健医療実践では、学際的で多職種のかかわりが必要です。他の領域の授業との相互関係の中で、医療専門家だけにとどまらず、他分野とのかかわりを通して、それぞれの専門性を活かしてチームとして研究と看護実践・保健医療実践をデザインし、医療の発展に貢献する姿を知ること、専門的知識と技能の重要性を再認識し、さらなる学修への動機づけが高まります。

<学修成果の評価方法>

学修の成果は、筆記試験、課題レポート、演習や実験レポート、学位論文と発表の討議内容等で、シラバスの学習目標にそって達成度を厳正に評価します。

教育課程全体を通し、医療に携わる者としての高い倫理観をもち、看護学・保健学の発展に寄与して人々の幸せに貢献するという使命感を自覚した、真の自律した医療人を育成します。

医学系（保健学専攻）統合保健看護科学 博士

カリキュラムマップ

	4つの学習目標					1年				2年				3年			
	深い専門性 と高	最先端 かつ高	高度な 教養	高度な 国際性	高度な デザイン	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期
最先端かつ高度な専門性と深い学識	○					共通科目											
○保健学・保健学の各領域で求められる高度な知識・技術を有している																	
○保健学・看護学の課題解決に向けて、習得した知識・技術を活用できる	○					特講											
高度な教養																	
○高い倫理観を持ち、豊かな人間性を身につけている		○				演習											
○健康と環境の関係を複眼的・俯瞰的に施行し、人類の文化・社会・自然に関連付けて他者に説明できる			○														
高度な国際性						看護管理科学, 母性胎児科学, 母性ヘルスケア学, 小児・家族看護学, 成育小児科学, 地域ヘルスケアシステム科学, 地域ヘルスプロモーション学, 周手術期管理学, 慢性疾患看護学, 老年看護学, 精神保健看護学, 公衆衛生看護学, 包括看護科学,がん看護実践開発科学											
○異なる言語・文化背景を考慮した、保健医療のあり方について検討し提供できる				○													
○高度な専門知識を活用しながら、言語・文化の相違を超えて交流し、保健医療の課題をグローバルな視点で総合的に評価できる				○		統合保健看護科学											
○国際学会・国際誌で研究成果を公表でき、自身の研究を社会へ説明できる				○													
○医療科学における国際連携の中でリーダーシップを発揮でき、後進の指導や社会的な活動などを通じて医療科学の社会的発展の推進力を有している				○		特別研究											
高度なデザイン力					○												
○医療科学の領域における問題発見・設定能力があり、自ら研究をデザインでき、研究を完結できる					○	特別研究 発表会											
○研究課題には世界的新規性があり、臨床応用への展開、他分野の人々、他の専門分野と融合した新しい医療科学の創生や、未来医療を創拓することができる					○												
○学問の府たる大学としての自主性、独創性がある研究を遂行でき、研究の視点として理論と実証の両面を身につけている					○												